

創立40周年にあたって

同窓会長 平川 忠敏

(第1期生)

幼年教育研究施設の設立40周年のお祝いを申し上げます。全国に例のない施設ができたのが1966年、翌年に附属幼稚園が、1975年には大学院ができています。20周年の式典の時だったと思いますが、初代の施設長をされた柴谷先生が幼児とかではなくて幼年でないといけないのだということを強調されていらしたのを覚えています。

私は大学院修士課程の第1回目の入学生です。当時は広島市内の幼稚園の二階に研究室があり、子供達の声でにぎやかなものでした。スタッフは、林先生、清水先生、森先生、祐宗先生、利島先生、阿部先生でした。林先生は穏やかな雰囲気、絵画の発達などの講義がありました。ご自分もすごい絵を描かれて展覧会で出品されていました。清水先生は、病名などを英語やドイツ語で板書して「えーっと日本語でなんとと言いましたっけ」というのが口癖でした。私は清水先生のこの口癖が大好きでよくまねたものです。森先生の演習の最後は大演習と称して、先生のお宅での宴会でした。森先生はスポーツもお好きで公園でキャッチボールなどをよくしました。祐宗先生はとてもお忙しそうでも時速6キロくらいのスピードで歩いていらっしゃいました。利島先生には、文献リサーチ、研究計画、実際の調査、統計処理、論文の書き方まで指導していただきました。阿部先生にはドイツ語を鍛えられた思い出があります。

40年の間にはいろんなことがありました。博士課程ができたり東広島市に移転したり大学院の名称が変わったりしてきていますが、なにより同窓生が増えてまいりました。同窓会報第3号によりますと修士課程136名、博士課程54名が在籍していたことになり、現在も約20名が在籍しています。指導して下さいました先生方は教授7名、助教授3名、助手15名になります。これまでの伝統を引き継ぎながらも新しさを常に求めて、幼年教育研究施設がますます充実していくことを願っております。またそのためには同窓会としましても物心両面から大いに援助していきたいと考えているところです。